

○少子化に対応した魅力ある学校づくりの在り方について

# 1 魅力ある学校づくり

## (1) 『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』

### 『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』

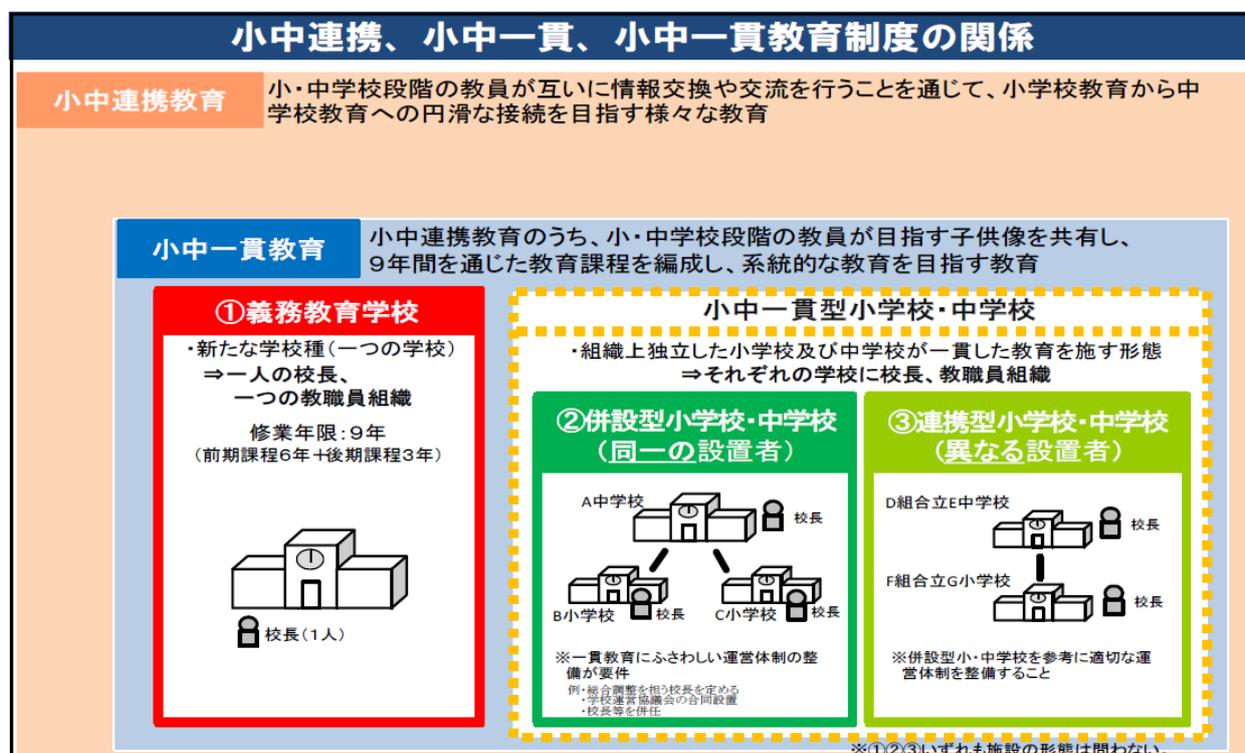
#### ①地域との協働関係を生かした学校づくり

学校統合や学区の在り方等の検討を機に、保護者や地域住民の参画により学校運営の改善に取り組む「学校運営協議会制度」（コミュニティ・スクール）や、地域住民等の参画により学校教育活動を支援する「学校支援地域本部」を積極的に導入するなどして、地域と学校のより密接な協働関係を構築することが考えられます。

#### ②魅力あるカリキュラムの導入等（小中一貫教育の導入）

子供の発達の早期化や、いわゆる中1ギャップへの効果的な対応、学習内容の高度化への対応、学校の社会性育成機能の強化という観点から、「小中一貫教育」を導入することが考えられます。

小中一貫教育の制度化においては、従来の制度下での小中一貫教育の取組では、教育課程の在り方、学年段階間の区切りの設け方、マネジメント体制の在り方、施設の形態などが様々であり、地域の実情に即した多様な取組が行われてきた状況を踏まえ、大きく2つの形態を制度化することとなりました。



【出典】 『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』

## ○義務教育学校

義務教育学校は、一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する新しい種類の学校です。心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことが学校の目的とされています。

修業年限は9年ですが、転出入する児童生徒への配慮等から、前期6年と後期3年の課程に区分し、基本的には、それぞれ小学校及び中学校の学習指導要領が準用されます。その上で、一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学年段階間・学校段階間での指導内容の入替え等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を設置者の判断で実施することが認められています。

義務教育学校は、9年の課程が小学校相当の前期6年、中学校相当の後期3年に区分されていますが、1年生から9年生までの児童生徒が1つの学校に通うという特質を生かして、9年間の教育課程において「4—3—2」や「5—4」などの柔軟な学年段階の区切りを設定することが容易になります。

## ○併設型小・中学校

併設型小・中学校は、既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校です。中学校区におけるこれまでの小中連携の取組を基盤として、一貫教育にレベルアップさせるイメージです。

これらの学校においては、下記事項を踏まえ、小中一貫教育の実質を適切に担保する観点から、小中一貫教育を行うためにふさわしい運営上の仕組みを整えることが要件とされています。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>① 小学校と中学校の組織文化の違いを乗り越える必要があること</li><li>② 3校以上の学校が連携・接続する形態があり得ること</li><li>③ 一般的な小中連携と明確に区別する必要があること</li></ul> |
|---|

## ○連携型小・中学校

ほとんどの場合、一貫して教育を行おうとする小学校と中学校の設置者は同一であると考えられますが、設置者の異なる小学校と中学校が一貫した教育を行おうとする場合も少数ながら想定されます。

連携型小・中学校においては、学校同士の関係性や学校間の距離等について多様な組合せが考えられることから、省令上、一律に教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることとする旨の規定は設けられていませんが、併設型小・中学校におけるふさわしい運営の仕組みも参考に、小中一貫教育の実質が担保されるよう適切な運営体制を整備することが求められます。

	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
		中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者	—	同一の設置者	異なる設置者
修業年限	9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織 ・運営	一人の校長、 一つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
		小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件 ①関係校を一体的にマネジメントする組織を設け、学校間の総合調整を担う校長を定め、必要な権限を教育委員会から委任する ②学校運営協議会を関係校に合同で設置し、一体的な教育課程の編成に関する基本的な方針を承認する手続を明確にする ③一体的なマネジメントを可能とする観点から、小学校と中学校の管理職を含め全教職員を併任させる	中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許	原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※当分の間は小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所属する学校の免許状を保有していること	
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間の教育目標の設定</li> <li>・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成</li> </ul>		

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
			中学校併設型小学校 小学校併設型中学校	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
教育課程の特例	一貫教育に必要な独自教科の設定	○	○	○
	指導内容の入れ替え・移行	○	○	×
施設形態	施設一体型 ・ 施設隣接型 ・ 施設分離型			
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用		
標準規模	18 学級以上 27 学級以下	小学校、中学校それぞれ 12 学級以上 18 学級以下		
通学距離	おおむね 6km 以内	小学校はおおむね 4km 以内、中学校はおおむね 6km 以内		
設置手続き	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等		

【出典】『小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引』

### ③施設整備面での充実

統合に伴い学校施設を新增築又は改修する場合、地域への学校開放を前提としてコミュニティスペースをあらかじめ設けるといった工夫を行うことや、図書館や公民館といった社会教育施設と複合化した施設とすることも考えられます。

(2) 桐生市立小中学校の教育環境に関するアンケート調査結果 [令和3年度実施]

【小中学校に期待する（期待される）こと】

○小学校

<p>未就学児 保護者</p>	<p>「教員の目が行き届き、早い段階で問題に対応できること。」(41.7%) の割合が最も高い。</p> <p>「きめ細かな観察により、教員が児童一人一人に必要な指導を行えること。」(29.0%)</p> <p>「多数の同級生と切磋琢磨しながら学力や体力を伸ばせること。」(23.7%)</p> <p>「児童どうしの人間関係が深まりやすく、親友をつくることができること。」(22.7%)</p> <p>「多様な意見に接することで人間の幅を広げることができること。」(21.5%)</p>
<p>小学5年生 保護者</p>	<p>「教員の目が行き届き、早い段階で問題に対応できること。」(38.3%) の割合が最も高い。</p> <p>「きめ細かな観察により、教員が児童一人一人に必要な指導を行えること。」(28.5%)</p> <p>「多数の同級生と切磋琢磨しながら学力や体力を伸ばせること。」(27.4%)</p> <p>「児童どうしの人間関係が深まりやすく、親友をつくることができること。」(26.1%)</p> <p>「多様な意見に接することで人間の幅を広げることができること。」(21.7%)</p>
<p>小学校 教職員</p>	<p>「きめ細かな観察により、教員が児童一人一人に必要な指導を行えること。」(52.3%)の割合が最も高い。</p> <p>「多様な意見に接することで人間の幅を広げることができること。」(41.8%)</p> <p>「多数の同級生と切磋琢磨しながら学力や体力を伸ばせること。」(33.3%)</p> <p>「個に応じた多様な学習環境で学びを深められること。」(17.0%)</p> <p>「教員の目が行き届き、早い段階で問題に対応できること。」(16.3%)</p>

○中学校

<p>中学2年生 保護者</p>	<p>「教員の目が行き届き、早い段階で問題に対応できること。」(35.2%) の割合が最も高い。</p> <p>「多数の同級生と切磋琢磨しながら学力や体力を伸ばせること。」(30.8%) 「きめ細かな観察により、教員が生徒一人一人に必要な指導を行えること。」(28.8%) 「生徒どうしの間関係が深まりやすく、親友をつくることのできること。」(27.6%) 「個に応じた多様な学習環境で学びを深められること。」(21.2%)</p>
<p>中学校 教職員</p>	<p>「多様な意見に接することで人間の幅を広げることができること。」 (45.6%) の割合が最も高い。</p> <p>「多数の同級生と切磋琢磨しながら学力や体力を伸ばせること。」(43.3%) 「きめ細かな観察により、教員が生徒一人一人に必要な指導を行えること。」(36.7%) 「個に応じた多様な学習環境で学びを深められること。」(15.6%) 「クラス替えで人間関係の幅が広がり、たくさんの友達ができること。」(13.3%)</p>

【学校規模に関して困っていること】

○小学校

<p>小学校 教職員</p>	<p>「職員数の制約ゆえ、経験・教科等のバランスの良いチームが組めない。」(35.9%) の割合が最も高い。</p> <p>「単学級でクラス替えができず、人間関係が固定的、序列的となる。」(35.3%) 「職員数が少ないため、出張や年休取得が難しい。」(28.1%)</p>
--------------------	---

○中学校

<p>中学校 教職員</p>	<p>「職員数の制約ゆえ、経験・教科等のバランスの良いチームが組めない。」(64.4%) の割合が最も高い。</p> <p>「職員数が少ないため、出張や年休取得が難しい。」(46.7%) 「生徒数、学級数が少ないため、多様な考えに触れさせることができない。」(23.3%)</p>
--------------------	--

## 2 学校規模の適正化を進める上で考慮すべき事項

### (1) 桐生市立小中学校の教育環境に関するアンケート調査結果 [令和3年度実施]

#### 【学校の統合を進めている自治体の対応】

##### ○小学校

未就学児 保護者	「どちらかといえば賛成」(33.4%)の割合が最も高い。  「分からない」(28.1%) 「どちらかといえば反対」(18.5%) 「賛成」(13.4%) 「反対」(4.2%)
小学5年生 保護者	「どちらかといえば賛成」(31.4%)の割合が最も高い。  「分からない」(27.4%) 「どちらかといえば反対」(19.5%) 「賛成」(12.7%) 「反対」(6.5%)
小学校 教職員	「どちらかといえば賛成」(49.7%)の割合が最も高い。  「賛成」(21.6%) 「分からない」(13.1%) 「どちらかといえば反対」(11.8%) 「反対」(2.6%)

##### ○中学校

中学2年生 保護者	「どちらかといえば賛成」(34.1%)の割合が最も高い。  「分からない」(32.0%) 「どちらかといえば反対」(17.3%) 「賛成」(11.7%) 「反対」(2.7%)
中学校 教職員	「どちらかといえば賛成」(55.6%)の割合が最も高い。  「賛成」(24.4%) 「どちらかといえば反対」(10.0%) 「分からない」(7.8%) 「反対」(2.2%)

## (2) 『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』

- スクールバス等の多様な交通手段の導入に伴う課題への対応
- 通学路の安全確保に関する対応
- 児童生徒にとっての環境変化への対応
- 地域との関係の希薄化を防ぐ工夫
- 地域の拠点機能の継承
- 統合に伴う諸事務の計画的な実施

## (3) 他市の事例

- 児童生徒への配慮
- 通学環境への配慮
- 地域住民・地域コミュニティへの配慮
- 保護者への配慮
- 関係機関との連携・関係計画との関連性
- 施設の利用・施設整備
- 校名等の変更・学校の歴史の継承等
- 基本計画の見直し